

現実の就労に即応した専門教育カリキュラムの構築

—生活総合ビジネス専攻卒業生動向調査報告—

Curriculum development based on survey about employment

—A report on the survey of graduates of Business major—

岡田 小夜子¹, 玉木 伸介², 甲斐荘 正晃³, 池頭 純子⁴

Sayoko Okada¹, Nobusuke Tamaki², Masaaki Kainosho³, Atsuko Ikegashira⁴

^{1,2,3,4}大妻女子大学短期大学部家政科生活総合ビジネス専攻

キーワード：カリキュラム，アンケート，就労，転職

Key words : Curriculum, Questionnaire, Employment, Career change

1. 研究目的

2011年に創設された短期大学部家政科生活総合ビジネス専攻の卒業生約700人（1期生から8期生まで）に卒業後のアンケート調査を実施することにより、卒業生の就労状況、卒業生の職業意識、仕事に必要な能力の修得状況の分析を行う。

本研究の目的は、第一に卒業生のデータを分析することにより、その結果を今後のカリキュラムに反映することである。ビジネスが急激な変化を遂げている今日、現実のビジネス社会に即応した知識・スキルを学生に提供するためには、卒業生の就労状況の把握がもっとも適切な方法である。AIの発展により10年後には半分の職種が消滅すると言われてから久しいが、現実ではどうなのかを知り、現状のニーズにより適ったカリキュラムの構築が必要である。

目的の第二は副次的であるが、本学卒業生が新卒で入社した企業の状況を知ることである。会社案内や説明会では把握できない企業の現場の情報を把握することによって、今後の在校生の就職指導に活かすことができる。本専攻の卒業生の多くは本学の就職支援センターからの求人情報をもとに就職企業を選んでおり、特に毎年実施されてい

る学内企業説明会に参加した企業に多くの本専攻学生は就職している。したがって専攻の先輩が入社した企業ゆえに安心感をもって応募する学生も多い。そうした企業について、在学生によりの確に伝えるために就労の情報を得る必要がある。

在学中の学びが学生の卒業後の職業生活において、どのような影響を与えたかを知るための調査は多くの大学・短期大学で実施されている。その分析により教育の職業的レリバンス（有意性）を明確化しようとする試みが多い。実務系の教育機関にとって現実と乖離した教育は失敗であり、常に送り出す学生の社会の情勢に応じた教育をしなければならない。

そのため、たとえば長崎ウエスレヤン大学の「卒業生調査から見る大学カリキュラム改革の有効性」（2016年）、共栄学園短期大学部の「短期大学における専門教育プログラムの課題抽出」（2006年）では結果を分析してカリキュラム改革を行っている。実務教育を行って学生を毎年ビジネス社会に送り込む教育機関として、教育が現実のビジネス実務を十分に補完しているのかという点は実務教育担当者にとって常の課題である。

2. 研究実施内容

本研究は以下のような Web による調査を行った。卒業生にメールでアンケート依頼をし、各自が Web で答えるという方式をとった。

(1)期間 2020 年 11/13～11/29

(2)回答者

- ・短ビジ卒業生（1 期生 2012 年度卒～8 期生 2019 年度卒）157 名

- ・メールによるアンケート依頼 407 通

- ・回収率 38.5%

(3)調査項目

①本専攻で身につけた力のうち現在の職場で必要とされている力

②現在の職場に必要な力のうち、卒業生が現在持っている力

③転職経験とその理由

2-1 調査回答者の概要

回答者 157 名のうち、現在就労中は 150 人で全体の 95.5%であり、高い就労率を示している。職種は一般職が 130 人で全体の 85.0%を占める。次いで総合職が 2.6%、営業職が 2.0%である。

雇用形態をみると正社員が 146 人で全体の 94.2%である。ついで非正規（フルタイム）が 4.5%である。

仕事の満足度は「大いに満足」は 23.6%、「少し満足」は 26.8%、「普通」は 37.6%、「あまり満足でない」は 10.2%、「全く満足していない」は 1.9%である。「大いに満足」と「少し満足」が合計 50.4%とおよそ半数であるが、「普通」の回答も少なくなく、全体的な満足度は改善の必要性がある。

2-2 本専攻で身につけた力のうち、現在の職場で必要とされている力

各項目について現在の職場の仕事で必要とされるかという問いに対して、「大いに必要」「少し必要」「普通」「あまり必要でない」「全く必要でない」の選択肢で答えた結果は表 1 のとおりである。

現在の仕事で求められる能力は、「ビジネスマナー」と「チームワーク力」が最も多い。それに次いで求められる能力は、「基礎的な学力・知識」、「コミュニケーション力」、「PC活用スキル」、「問題解決能力」が挙げられた。「チームワーク力」と「中学卒業程度の基礎的な学力・知識」が大いに職場で求められる力の一つだったことは予想を超えていた。一方、中堅社員になりつつある卒業生にとって、「リーダーシップ」がそれほど必要ではないことも想定外であった。

表 1. 現在の職場で必要とされている力（重複回答可）

	5 大いに必要	4 少し必要	3 普通	2 あまり必要でない	1 全く必要でない
1 PC活用スキル (Word, Excel, PowerPoint)	72	49	23	11	2
2 ITスキル (プログラミング, RPA, 専門的 IT スキル)	5	10	34	63	45
3 ビジネスマナー (敬語, 来客対応, 電話対応)	115	26	11	5	
4 経理会計知識	22	46	35	34	20
5 金融知識	21	29	42	40	25
6 プレゼンテーション力	21	36	45	38	17
7 ビジネス英語	16	17	41	46	37
8 顧客や取引先などとのコミュニケーション力	78	46	15	12	6
9 職場の中のチームワーク	99	43	12	3	
10 統率力・リーダーシップ	20	46	55	28	8
11 課題を発見し問題を解決する力	65	53	31	6	2
12 仕事の段取りをデザインする力	51	55	28	16	7
13 中学卒業程度の基礎的な学力・知識	88	36	32	1	
14 その他の専門的知識	42	32	64	16	3

(注) 網掛けの部分はもっとも多い回答

2-3 職場で必要な力に対して現在持っている力

実際に必要とされる力に対して現在の卒業生はどのくらいの力を有しているのか、「大いに力がある」「少し力がある」「普通」「少し力が足りない」「とても力が足りない」の選択肢の結果は表2のとおりである。

自信をもって「大いに力がある」と答えた卒業生は少なかったが、「少し力がある」と答えた項目で多いのは「ビジネスマナー」「PC活用スキル」「チームワーク」であった。ビジネスマナーとPC活用スキルは現実の職場で必要とされており、現在その力を持っているという回答が多かったことは、本専攻のカリキュラムの基本構造が現場のニーズに適っていることを示している。

一方、「少し力が足りない」項目は「金融知識」「ITスキル」であり、「とても力が足りない」が「ビジネス英語」であった。「少し力が足りない」と「とても力が足りない」の合計の回答数が多かったのは、「ITスキル」と「ビジネス英語」だった。「ITスキル」は78%、「ビジネス英語」は73%の卒業

生が力が足りないと感じていた。「経理会計」と「リーダーシップ」についても力が足りないと感じているようであった。

2-4 転職経験とその理由

回答者の中で転職経験のある卒業生は13.4%と一般水準15.9%(25~29歳女性 転職入職率 令和元年上半期 厚生労働省 — 2019年(令和元年)上半期雇用動向調査結果の概況 —)より少なめである。86.6%の学生が転職をせずに勤め続けている。

転職の理由では「仕事にやりがいを感じられなかった」「給与に不満」などが挙げられた。

3. まとめと今後の課題

今回の調査は時代の変化に合わせたカリキュラムの構築を第一の目的としている。2020年に10期生の新入生を迎えた本専攻が、これからの学生の学びのニーズに応えるには、カリキュラムを常に最新のビジネス社会に適應したものに変えていく必要があることは論を俟たない。

表2 職場で必要な力に対して現在持っている力 (複数回答可)

	5 おおいに力がある	4 少し力がある	3 普通	2 少し力が足りない	1 とても力が足りない
1 PC活用スキル (Word, Excel, PowerPoint)	10	62	57	25	2
2 ITスキル(プログラミング, RPA, 専門的ITスキル)	1	8	26	50	71
3 ビジネスマナー(敬語, 来客対応, 電話対応)	24	79	48	5	
4 経理会計知識	2	24	51	46	33
5 金融知識	2	20	48	51	35
6 プレゼンテーション力	8	20	58	52	18
7 ビジネス英語	1	5	34	57	59
8 顧客や取引先などとのコミュニケーション力	22	48	66	14	6
9 職場の中のチームワーク	29	68	54	5	
10 統率力・リーダーシップ	7	18	63	50	18
11 課題を発見し問題を解決する力	12	47	69	22	5
12 仕事の段取りをデザインする力	13	36	78	20	9
13 中学卒業程度の基礎的な学力・知識	23	34	78	19	1
14 その他の専門的知識	9	29	75	33	8

(注) 網掛けの部分はもっとも多い回答

今回の調査で実際の職場で必要とされる力が浮かび上がった。そしてその必要とされる力に対して卒業生はどの程度の力を獲得できているのかという実力の実態も明らかになった。

今後は一つ一つの力について精査し、必要な力を伸長するためのカリキュラムの整備に努めたい。

また今回の調査の通信欄で卒業生が働く各企業の働きやすさなどの情報も取得できた。それらを

在学生に提供し、円滑な就職活動のサポートの一環としたい。

4. この助成による発表論文等

2021年に論文投稿を予定している。